



バスケットボールを通じた
次世代人材育成&防災学習プログラム

ER CAMP

ご案内資料 | 2023年11月

ER CAMPとは？



ER CAMPは東野 智弥氏が行っていた「クラッシャーキャンプ」を株式会社ERUTLUCが引き継いで立ち上がった、新しいキャンプです。

クラッシャーキャンプとは、「同じTシャツを着た選手が、チームや年代を越えて様々な人と、楽しく一生懸命バスケットをする」という目的で47都道府県のバスケット有志と協力して実施していました。

その想いのバトンを株式会社ERUTLUCが引き継ぐということから、CRUSH「ER」と「ER」UTLUCを取って『ER CAMP』となり、今後、事業を推進していきます。

東野 智弥 Tomoya "Crusher" Higashino

1970年生まれ、石川県加賀市出身。

2016年6月よりJBA技術委員会委員長。また現在、理工学研究科都市人間環境学選考沿岸まちづくり；有川太郎教授に師事し、「バスケとER：防災教育」を考える。

小学3年からバスケットボールを始め、錦城中学校で北信越大会で活躍、北陸高校ではインターハイ優勝を経験。早稲田大学、アンフィニ東京（現さいたまブロンコス）でプレーし、引退後はアメリカ・オレゴン州のルイス&クラーク大学にコーチ留学し、アシスタントコーチを務める。1996年よりCRキャンプを始め19年間行う。帰国後に国内各チームでコーチを歴任。主なものとして2002年にトヨタ自動車（現アルパルク東京）をアシスタントコーチとしてJBLスーパーリーグで優勝したほか、2015年には浜松・東三河フェニックス（現三遠ネオフェニックス）を率いてbjリーグ優勝。2004～2006年、2010～2012年には男子日本代表コーチも務める。2012年夏には、ミルウォーキー・バックスの招待コーチとしてNBAサマーリーグに参加。早稲田大学大学院スポーツ科学研究科トップスポーツマネジメントを2012年3月修了。2019年11月よりFIBA・WABCエグゼクティブメンバーに就任。2016年Bリーグ開幕より、理事、特任理事（現在）を歴任。



左：岩手県大槌町・四戸（しのへ）さん、右：東野



ERUTLUC 代表

鈴木 良和 Yoshikazu Suzuki

1979年6月生まれ。茨城県つくば市でバスケットボールをはじめ、筑波西中学校から県立並木高校へ進学。その後は指導者としての道を志し、千葉大学のスポーツ科学課程に進学。千葉大学では同大学教授の日高哲朗氏に師事し、指導者としての礎を築く。

その後、WJBLチャンソン化粧品の練習補助や2003年に釜山で行われたアジア大会に男子日本代表のテクニカルスタッフなどを経験。時を同じくして、千葉大学大学院に進学し、そこでバスケットボールの家庭教師という事業を立ち上げる。その後、ドイツ、チェコ、スペイン、イタリアでジュニア期のコーチングについて学び、2007年に株式会社ERUTLUCを設立。現在、指導者約80名、社員13名、年間4000件以上の指導を行う事業を運営している。各都道府県協会の指導者講習会も数多く担当しており、2016年からJBA技術委員会指導者養成部会員、ユース育成部会員として活動し、U12、U13ナショナルキャンプのヘッドコーチ、男子日本代表のサポートコーチとしても活動している。男子U22代表のスプリングキャンプのクリニックやWJBLチームのオフシーズンのワークアウトを担当するなど、バスケットボール界においてトップと育成年代をつなぐという役割を担う。現在は、女子日本代表アシスタントコーチに就任し、パリオリンピック出場および金メダル獲得を目指し、活動を行っている。



コンセプト



LIFE NEEDS BASKETBALL

「バスケットは人生を豊かにする！」という考えをもとに

楽しく一生懸命 をモットーにキャンプを行い、

1日をいつもと違うバスケットを新たなコーチから、
他チームの選手たちと共に、チャレンジするキャンプ。

キャンプが終わっても、残りの364日を

変化・成長 を促す試みをする！！

実施概要



目 的

1. 日々移り行く世界、「スポーツ（バスケット）」の力で世界に通用する人材へのアプローチ（競技自体の非連続性x連続性の掛け合わせと、日常的なカルチャーとの親和性は、一人一人の人生や地域を活性化できる。）
2. 災害時における地域コミュニティのリーダーシップをとれる人材や復旧、復興時の地域の絆の形成に寄与する取り組みとしたい。



活動方針

1. ER CAMPは「防災とスポーツ」をテーマに、既存の枠組みを超えた取り組み。これにより、自主防災組織での課題を解決し、コミュニティのレジリエンスを高める。
2. 2026年からは、毎年47都道府県を2回ずつ訪れる活動を定期的の実施し、「楽しく、一生懸命」に取り組みを促進。「日常を世界基準にする」という取り組みもスタンダード変化の一助となるはずだ。

活動内容



午 前

外部講師によるバスケクリニック



お昼休憩

午 後

技術を試すための3x3実践



ER CAMPはこれだけではない！

詳細次頁